

第3回栽培・飼育教材開発コンクールの審査結果と講評

審査委員長 平尾健二

幼児教育・保育施設，小学校，中学校，高等学校ならびに特別支援学校の教員を対象に，昨年度，第3回栽培・飼育教材開発コンクールを開催いたしました。以下，審査結果と講評についてご報告いたします。

本コンクールの内容として，以下の2部門を設定し募集を行いました。

(応募期間 2021年12月1日～2022年1月10日)

① 人格形成・知識理解部門

・・・子どもの人格形成・発達や，基礎的知識の習得に関する教育

(主に幼児教育・保育施設，小学校，中学校，特別支援学校)

② 農業技術・農業人材育成部門

・・・農業に関わる専門的技術・人材の育成に関する教育

(主に中学校、高等学校)

コロナ禍にあって様々な授業実践が制限を受ける中にもかかわらず，14件の応募をいただきました。ご応募いただきました各先生方をはじめ，ご協力いただきました学校関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

① 人格形成・知識理解部門 応募数：10件

② 農業技術・農業人材育成部門 応募数：4件

審査は，委員長：平尾健二（学会副会長・福岡教育大学），審査委員：浅野陽樹（鹿児島大学教育学部），竹村久生（浜松市緑化推進センター），勝川健三（弘前大学教育学部），田中大介（農研機構遺伝資源研究センター），門脇正行（島根大学生物資源科学部）の6名で実施しました。各審査員による事前評価，オンラインによる審査会を行い，最優秀賞2件，優秀賞4件を選出しました（下表）。また，惜しくも受賞には至りませんでした，高いレベルでの教材開発の成果をご紹介いただきました方々には奨励賞をお贈りすることとしました。ご応募いただきました皆様の教材研究へのご努力に対し，心より敬意を表します。

最優秀賞ならびに優秀賞の受賞者には表彰状と記念品，奨励賞の受賞者には表彰状を贈呈いたしました。また，審査結果として，各審査委員からの評価・アドバイスをまとめたものを講評として，希望された方々にお送りいたしました。今後の教材開発研究の参考にしていただければ幸いです。

第3回栽培・飼育教材開発コンクール受賞教材（作品）

①人格形成・知識理解部門

- 最優秀賞 永野優希（鹿児島大学教育学部附属小学校）
「学校と家庭の学びをつなぐ生活科栽培活動」
- 優 秀 賞 橋元忠史（鹿児島県鹿児島市立犬迫小学校）
「犬迫の未来を考えるドリームプロジェクト」
～桜島大根畑を核とした地域のシンボルとしての学びの場造形の取組を通して～
- 優 秀 賞 加賀爪さやか（静岡県浜松市立庄内中学校（庄内学園））
「地域とつながるポットマム栽培」
～繰り返し栽培による問題解決～
- 優 秀 賞 青山陽介（愛知県春日井市立岩成台中学校）
「簡易水田の整備と水田養鯉農法による稲作実習」

②農業技術・農業人材育成部門

- 最優秀賞 田呂雄一（北海道剣淵高等学校）
平沢駿太（北海道剣淵高等学校）
「地域と連動した鶏の飼育と持続可能な農業教育の展開」
- 優 秀 賞 中野忠雄（新潟県立長岡農業高等学校）
「おからを主原料に用いた味噌（おから味噌）を利用した教科『農業』の
食品関係科目における教材開発」

①人格形成・知識理解部門にて最優秀賞を受賞された永野優希先生の「学校と家庭の学びをつなぐ生活科栽培活動」では、コロナ禍でのニューノーマルに対応した小学校生活科（第2学年）でのエダマメ（ダイズ）栽培の教材が提案され、非常に有用性が高く、全国の学校で同様な悩みをもつ教員に対して大変参考になる取り組みであると評価されました。②農業技術・農業人材育成部門にて最優秀賞を受賞された田呂雄一先生、平沢駿太先生の「地域と連動した鶏の飼育と持続可能な農業教育の展開」では、畜産（鶏の飼育）をベースにさまざまな「もの・こと・ひと」とリンクした教材が提案され、社会的な課題とその解決に向けて地域資源を活用する取り組みが高く評価されました。

両教材（作品）に共通し、高く評価されたポイントは、教材を通じた実践が地域を超えて全国の学校の参考になる汎用性・実用性に富んだ発想をもっているところにあり、現在の学校教育における「農業教育」の発展を目指す上で大きな影響力をもつものと考えられました。引き続き、先生方の実践力ならびに教材開発力を存分に発揮され、さらなる教材開発が進展することを願っております。また、各受賞者のそれぞれの実践内容は、農業教育における実践研究として高い価値をもつものであり、今後、機会あればぜひ、学会講演会にてご発表いただきたいところでもあります。

次回のコンクールにおきましても、さらに多くのご応募をお待ちしております。